

千曲之真砂

瀬下敬忠編述。宝暦三（1753年）。1893年西沢喜太郎刊の「千曲之真砂」より。

1 卷之一の「○東山道信濃國」の項に「○或曰往古信濃ノ字無シ科國ト書ソト云」と記し、その例のひとつに

○國史曰、人皇第八代、孝元天皇五年辛卯、ミコオホシカミ児大神、天降科野國、建吾道宮鎮坐、手力雄命遷戸隱山、親營巖崛鎮坐、

云

2 卷之二の「國中名所参考」のひとつに

根
うらみの山

ある人のいへるは戸隱山の北也戸かくし山のうらを見るゆゑ名つきたりといへり按するに戸かくし山の後ならば越後の国の内なるへしいふかしき説なり又ある人のいは

く恨の山はいな郡清内路越の道に山本村といふあり其村の後の山也とをしへし此説さまありねへし

3 卷之二の 「国中名所参考」のひとつに、

高御倉
たかみくら山

高井郡にたかくら山大倉山なんと高山あれとそれにはあらす是は戸隠山の事也といへりある師のいはくたちからをの神のいます山なれば高御座ともいふ也高御座とも書へし又御倉山ともいふ也それは山城の國にもあれと一書には未勘とあり八雲御抄にも國つけはなし只御倉山といはゝ戸隠山の事なるへしかくれなき高山なりといへり按するにうたのつゝけからといひもつとも左もあるへし此山に決しなんまたいはく戸隠山の事神傳の略を筆のついでにあらくこゝに記しぬ

戸隠山社領千石、坊舎都五十三院、別當天台宗顯光寺觀修院、院家地也、祭神三座、奥院祭神、手力雄命、本地正觀

音、崛殿九頭龍權現本地辨財天、坊舎十二院、中院祭神、思兼命、本地釋迦、坊舎二十四院、自比丘尼石奥、女人禁斷也寶光院祭神表春命、本地勝軍地藏、坊舎十七院、此他日之御子社三所、合五十三坊也、神傳曰、上神形九頭、而在岩崛之内、以梨爲神供、又每夜丑刻、未春米三升、炊之爲飯備之、云或傳曰、此者當山地主神也、爲神秘、合爲戸隱四社大權現、云日本紀曰、日神入天石崛時、手力雄神則立磐戸之側、日神以御手、細開磐戸窺之、時手力雄神則奉承御手引而奉出也、舊事本紀曰、上天照大神逾思奇、而聊細開磐戸、而窺之、命手力雄命、奉承其御手而引出、下古事記所載同文也、神社考曰、上多力雄神、取岩戸拋空、落在神乃戸隱、故曰爾也、下同書曰、伊勢内宮相殿左脇祭此神、此神者、思兼命之子也、云元亨釋書曰、天照大神相殿二座左手力雄命、右萬幡姫命、云

私曰、戸隱山神領千石、内五百石本坊、三百石奥院十二坊、二百石日之御子社司栗田大膳領之、又曰戸隱山祭禮、寶光院七月八日、中院同十日、奥院同十五日也、其儀式異他社、末卷詳載之、

註 卷末の正誤表によれば次のようになる。

誤 正

天石 天石

在神乃 此神在

4 「附録」に「国中怪異奇談」として

水内郡戸隠山の近所山中、念佛寺村眠月山雲上寺臥雲院、往古は清家にて、開山鎌倉建長寺雲峯禪師、永和元年草創なり、中ころ曹洞宗となりて、安曇郡仁科駒澤村、神龍山大澤寺末寺なり、中興南室和尚大澤寺住侶なり、慶長五年、開基性善大禪定門也、むかしは七堂伽藍なり、この寺に七ふしきと稱するあり、一に泉水の中に要石といふあり、水の増減にかゝはらず、水の上へ出る所いつも同し、又一人して動しても、大勢にて動しても、ゆるくこと同し、二に泉水の魚甚多し、この魚ともいつれも片目也、三に風穴といふあり、風吹出す

事輔フイユのことし、四に塵穴といふあり、山中の事となれば、
落葉を拂ひ集たる事山のことし、右の小さき穴の口へ積あけ
おくに、一夜の間にいつくへ行やらん一葉もなし、毎日かく
のことし五に山中にて、山また山をかさねたる中に、晴天の
時は泉水へ富士の影うつる、六に客殿の破風に大きな口あ
り、これより戸隠権現來臨し給ふといへり、毎年七月十六日
定りて、右の破風口に大霜降りて、暫時のうちは咫尺の間も
見えす、しはらくありて漸々霧はれる、年毎かくのことし、
七にいかなる大早炎天といへとも、客殿の軒端より、午時に
雨しゝたる事、毎日かくの如し、以上七ふしき、いとめつら
し惜いかな、寶歴五年乙亥、二月十日堂舎のこらす焼亡し、
今は小屋かけにして不思議の數ふたつ籟たり、

註 卷末の正誤表によれば次のようになる。

誤 正

早天 早天

籟たり 闕たり

5 「附録」に「国中怪異奇談」として

水内郡戸隠山三社、御祭り格別異なる神事ゆゑに爰に記すなり、。寶光院七月八日、中院七月十日、奥の院七月十五日なり、右三度ともに式同し、先庭中に高さ八九尺の竹束を立、殿中より山中五十三坊おのくたすきをかけ、鉢巻して、その出立ことくしく異相なり、一時餘り立ながら祈誓し。その後おのく持たる幣をか竹たはの上にたて道坊のうちより、一人火を持て、彼竹束にのほせ、右の幣帛に火を點し、儲その下にて坊三人長刀の鞘をはつし振廻し、色々につかひて、おのく退散す、いとめつらしき神事なり、

註 近代デジタルライブラリーの「千曲之真砂」に画像がある。

1は10巻 附録1巻巻之1、2の16、17コマ目

(DOI 10.11501/992090)

2は10巻 附録1巻・卷之1、2の79、80コマ目

(DOI 10.11501/992090)

3は10巻 附録1巻・卷之1、2の83、84コマ目

(DOI 10.11501/992090)

4は10巻 附録1巻・卷之9、10の92コマ目

(DOI 10.11501/992094)

5は10巻 附録1巻・卷之9、10の93コマ目

(DOI 10.11501/992094)

なお、「新編信濃資料叢書 第九卷」にも「千曲之

真砂」の翻刻がある。